

日本感情心理学会第 26 回大会

大会プログラム



東洋大学 白山キャンパス（東京都文京区）

2018年11月9日（金）・10日（土）・11日（日）

（11月9日はプレカンファレンス）

ご挨拶

日本感情心理学会は昨年度に 25 回大会という四半世紀の節目の大会を開催し、次の節目に向けた大会を東洋大学がお引き受けすることになりました。当学会は例年ですと 5 月または 6 月に年次大会を開催しておりましたが、今年度は当大学の会場確保の都合から 11 月開催となり、みなさまにはご迷惑をおかけいたしている部分もあろうかと思えます。しかしながら、会期が遅くなった分、今年度に入学者も大学院生にも発表の機会を提供でき、また今年度に入って収集したデータに関して発表を行うこともできるため、是非とも多くの方々にご参加いただき、研究成果の発表をしていただきたいと思います。

今大会のテーマは『感情研究の多様性』としております。日本感情心理学会では、基礎的研究を行っていらっしゃる会員が多く在籍している傾向にあります。そこで、今大会では心理学以外の領域で感情を重要な要因として位置づけ、かつスポーツ・マネジメント、地域、消費者行動といった領域で応用的な研究を行っている先生方をお呼びし、会員の皆様には感情研究の適用範囲の広さを実感していただくとともに、今後の多様な視点からの感情研究のヒントにつながることを期待してシンポジウムの 1 つを企画いたしました。

また、研究者からの発表だけではなく、さまざまな人間模様を描き、感情を表現しておられるミュージカル女優の沼尾みゆき氏をお呼びし、感情の伝達や表現に関して舞台をとおして実感されていることや心がけていらっしゃるについてお話しをしていただき、会員のみなさまにはそこから何らかの感情研究につながる気づきのあることを期待しております。

今年の夏は猛暑続きでしたが、季候の良い 11 月に東京にお越しいただくことを準備委員会一同でお待ちしております。なお、大会前日の 11 月 9 日（金）には若手によるプレカンファレンスも行う予定です。奮ってご参加ください。

2018 年 9 月吉日

日本感情心理学会第 26 回大会準備委員会
準備委員長 戸梶亜紀彦

東洋大学白山キャンパス最寄駅からのアクセスマップ



都営地下鉄三田線

「白山」駅

- ・ A3 出口から「正門・南門」徒歩 5 分
- ・ A1 出口から「西門」徒歩 5 分

「千石」駅

- ・ A1 出口から「正門・西門」徒歩 8 分

東京メトロ南北線

「本駒込」駅

- ・ 1 番出口から「正門・南門」徒歩 5 分

東京メトロ千代田線

「千駄木」駅

- ・ 1 番出口から「正門・南門」徒歩 15 分

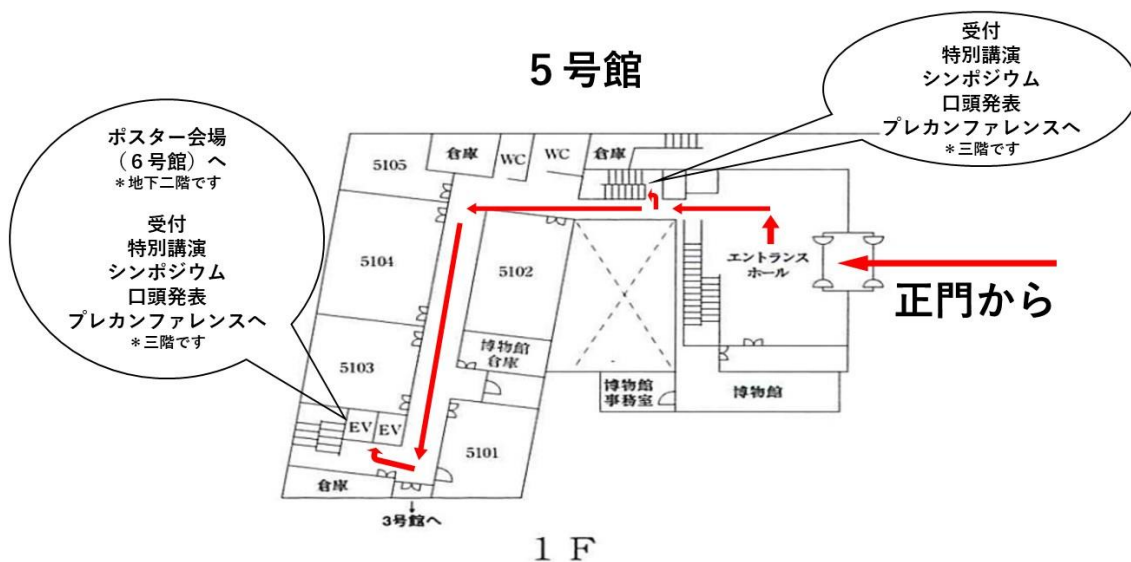
JR 山手線

「巣鴨」駅

- ・ 南口から「正門・西門」徒歩 20 分
- ・ 都営バス 10 分（「浅草寿町」行「東洋大学前」下車）

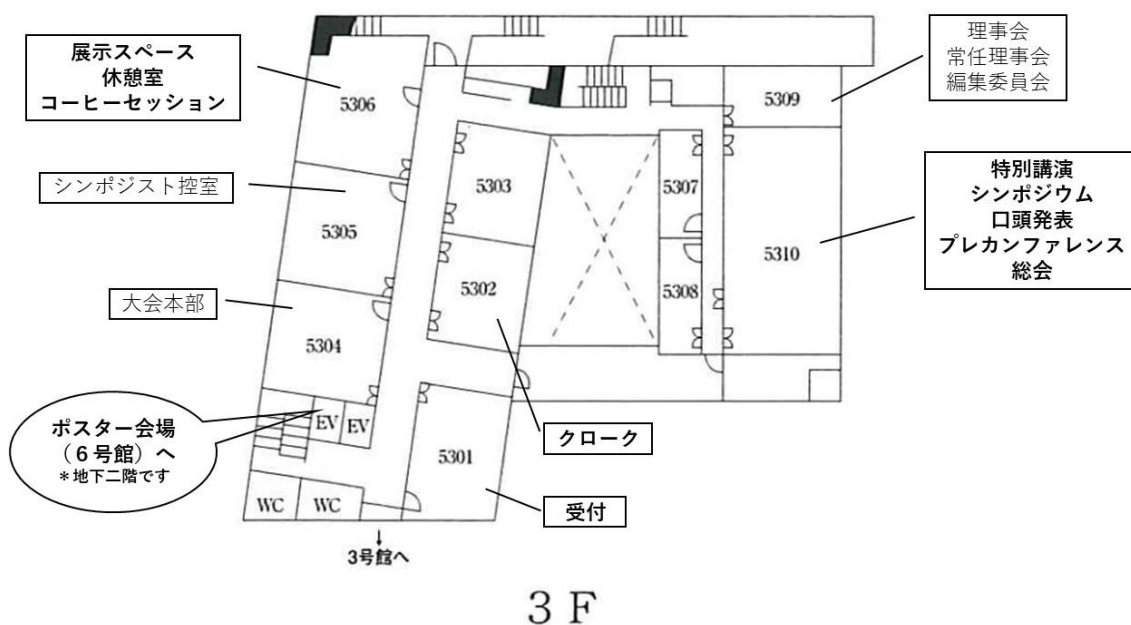
正門からメイン会場への順路

正門からは、坂を上がり正面の井上円了記念ホールと書かれた建物が5号館です（下記図：5号館1F参照）



メイン会場

メイン会場は5号館3Fです。1Fからは階段もしくはエレベーターをご利用ください。



ポスター会場

ポスター会場は6号館1Fです。

東洋大学は坂の上と下にあるため、5号館の地下2Fが6号館の1Fに相当します。お間違えの無いようにお気を付けください。ご不明の場合は、お近くのスタッフにお尋ねください。



ポスター会場への順路

正門から：5号館横のエスカレーターを地下2Fまで下りてください。そのまま直進していただくとポスター会場（6号館1F）に到着いたします。

西門（白山通方面）から：入っていただき、教務部を過ぎたところがポスター会場です。

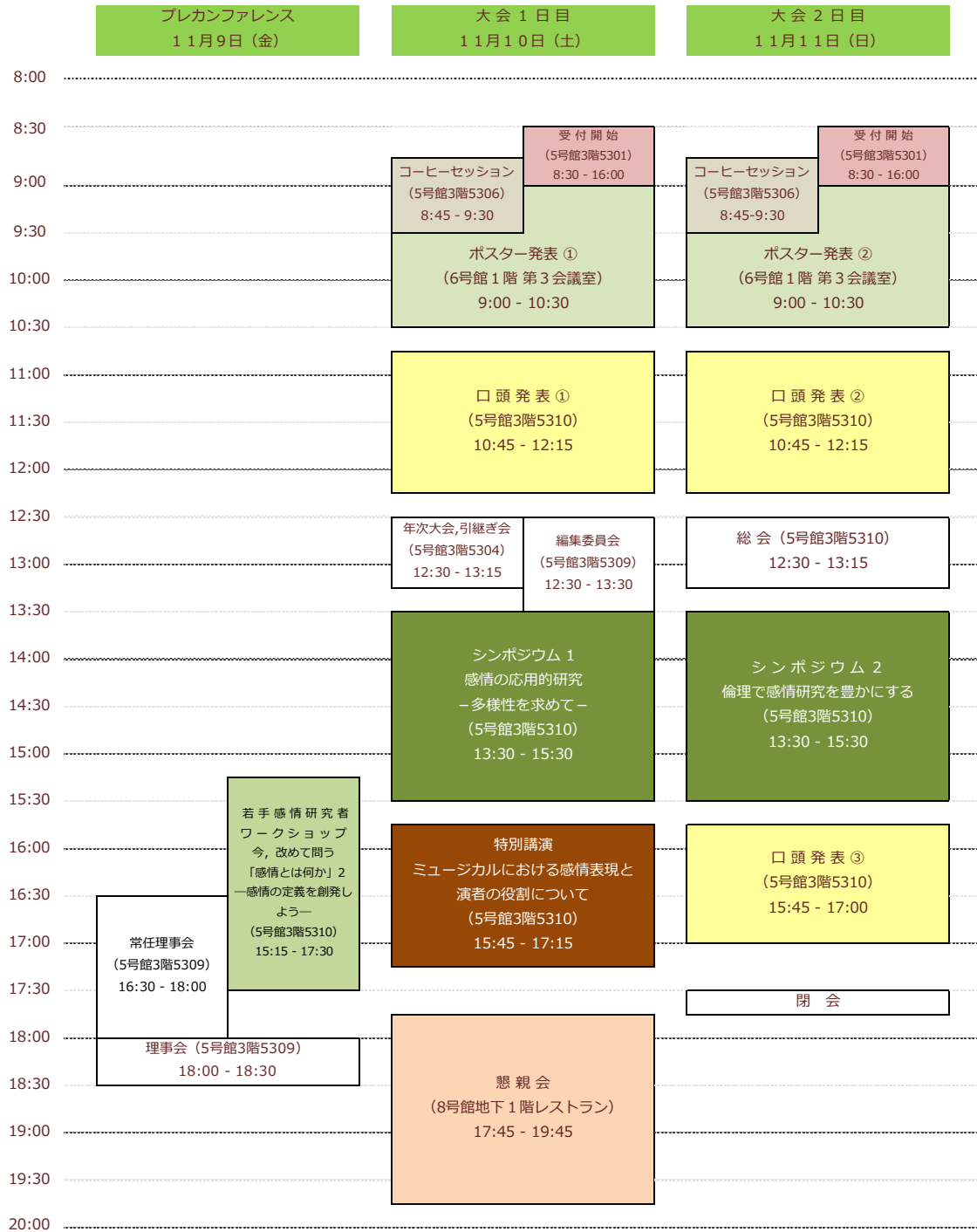
メイン会場から：エレベーターで5号館地下2Fに降りていただき、右手に向かって歩いていただくとポスター会場（6号館1F）に到着いたします。

仮受付所

本大会初日の11月10日（土）の8時半から10時半までの間の時間帯のみ、ポスター会場前に仮受付所を設けます。

なお、メイン会場の受付は11月10日（土）および11月11日（日）の両日とも8時半から16時まで開設いたします。

第26回 感情心理学会 大会スケジュール



大会行事等

1. 一般研究発表

11月10日(土)、11日(日)の両日にわたり、口頭発表(3セッション)とポスター発表(2セッション)が行なわれます。発表会場は口頭発表が5号館3階5310教室、ポスター発表が6号館1階第3会議室です。

2. 特別講演

11月10日(土)の15時45分から5号館3階5310教室において、特別講演「ミュージカルにおける感情表現と演者の役割について」が開催されます。

3. シンポジウム

2つのシンポジウムが企画されています。11月10日(土)にシンポジウム1「感情の応用的研究—多様性を求めて」が、11月11日(日)にシンポジウム2「倫理で感情研究を豊かにする」が開催されます。いずれも会場は5号館3階5310教室です。

4. プレカンファレンス

プレカンファレンス企画が11月9日(金)の15時15分から開催されます。タイトルは「今、改めて問う『感情とは何か』(2)—感情の定義を創発しよう—」で場所は5号館3階5310教室です。

5. 総会

本年度の総会は11月11日(日)の12時30分から5号館3階5310教室にて開催されます。

6. 各種委員会

- ① 常任理事会が11月9日(金)16時30分~18時の時間帯に、理事会が11月9日(金)18時~18時30分の時間帯に開催されます。会場はともに5号館3階5309教室です。
- ② 編集委員会が、11月10日(土)12時30分~13時30分の時間帯に開催されます。会場は5号館3階5309教室です。
- ③ 年次大会引き継ぎ会が、11月10日(土)12時30分~13時15分の時間帯に開催されます。会場は5号館3階5304教室です。

7. コーヒーセッション

11月10日(土)、11日(日)いずれも8時45分~9時30分の時間帯に、特に若手会員を対象にして感情心理学研究の編集委員長が直接お茶を飲みながらお話できるセッションを、5号館3階5306教室の休憩室の一角に設けます。フランクなお話しができる機会なので、有効にご活用ください。

8. 懇親会

11月10日(土)17時45分~19時45分の時間帯に、大学構内8号館地下1階レストランにて懇親会を開催致します。大会参加者同士の貴重な直接交流の機会を、素晴らしい料理とともに是非お楽しみください。

9. 展示

5号館3階5306教室に展示スペースを設けます。休憩室と併用ですので、是非お立ち寄りください。

大会参加者へのご案内

1. 大会受付

場 所： 東洋大学白山キャンパス 5号館 3階 5301 教室

時 間： 11月10日（土）8時30分～16時

11月11日（日）8時30分～16時

*11月10日（土）8時30分～10時30分までの間だけ、仮受付所をポスター会場前（6号館第3会議室前）に設営いたします。是非ご利用ください。

2. 大会参加費

① 事前予約参加の方

受付に直接お越し下さい。受付でお名前を伺い、予約参加について確認致します。確認後、参加証をお渡し致します。

大会参加費

正会員（一般）	6,000 円
正会員（院生）	5,000 円
学生会員	1,000 円
非会員（一般）	7,000 円
非会員（院生）	6,000 円
非会員（学生）	1,500 円

懇親会費

一般	5,000 円
院生・学生	3,500 円

② 当日参加（非会員を含む）の方

受付にて下記参加費をお支払いください。

大会参加費（当日参加）

正会員（一般）	7,000 円
正会員（院生）	6,000 円
学生会員	1,500 円
非会員（一般）	8,000 円
非会員（院生）	7,000 円
非会員（学生）	2,000 円

懇親会費（当日参加）

一般	6,000 円
院生・学生	4,000 円

3. クローク

11月10日（土）と11日（日）の大会期間中、5号館3階5302教室に設けております（11月9日（金）のプレカンファレンス時は設けておりません）のでご注意ください。ただし、貴重品の管理は各自で責任を持ってお願いします。なお、クロークの開設時間は8時30分～17時30分です。懇親会にご出席の方は、預けた荷物をクロークから受け取ってからご参加ください。

4. 昼食

会場内には学内食堂およびコンビニがあり、会場周辺には飲食店・喫茶店・コンビニエンスストア等がございます。学内食堂の営業時間につきましては店舗および曜日によって異なりますので、ウェブページ (<https://www.toyo.ac.jp/site/support/cafeteria-hakusan.html>) をご参照ください。日曜日は休業になります。

学会当日には受付にてお食事処マップをお配りする予定です。

研究発表者へのご案内

1. 口頭発表の方へ

口頭発表は、会場に Windows ノート PC (Windows 8.1 Enterprise) を 1 台ご用意いたします。使用可能なソフトウェアは PowerPoint (Microsoft Office 2016) のみで、インターネット接続はできませんのでご注意ください。

なお、発表会場には HDMI 接続ケーブルが備え付けられており、持参したノート PC のご使用も可能です。ただし、Mac の場合は正常動作の確約はできないため、変換ケーブルをご持参の上、自己責任でご使用ください。

会場に用意されたノート PC を使用される方は、ご発表前に USB メモリ等にデータを入れてご持参ください。

口頭発表 1 題の持ち時間は、**質疑応答を含めて 15 分間**です。

経過時間に合わせて、卓上ベルを鳴らして合図いたします。

10 分経過時：1 鈴

12 分経過時 (発表終了の目安)：2 鈴

15 分経過時 (質疑応答を含む発表終了)：3 鈴

2. ポスター発表の方へ

掲示用ポスターパネルのサイズは**ヨコ 95cm×タテ 185cm**です。このサイズに収まるようにご作成願います。ポスター貼付用のピンは会場にご用意致します。会場での印刷は致しかねますのでご了承ください。90 分のポスターセッション中、発表番号が奇数の方は前半 45 分間が、偶数の方は後半 45 分間が責任在席時間です。責任在席時間開始後 20 分前後の時間帯に会場係が確認に参りますので、ご協力ください。ポスター発表会場は正規の掲示時間にかかわらず、発表当日の 9 時から 17 時 30 分まで使用できます。発表ご担当の方は夕方までポスターを掲示し、自由にディスカッションしていただいかまいません。なお、17 時 30 分を過ぎても掲示されているポスターは大会準備委員会が撤去・処分致します。悪しからずご了承ください。

3. 共通事項

実際の発表に加え、発表抄録を作成いただき期限までに提出いただくことが、発表を公式に記録する要件となります。なお、今大会より、大会 1 か月前 (10 月 10 日) までに抄録を提出された発表が次項に示す大会発表賞の選考対象となります。提出期限および詳細は以下の通りですので、締切り厳守でお願い申し上げます。

提出期限

2018 年 10 月 10 日 (水) (大会発表賞選考対象期限)

2018 年 11 月 18 日 (月) (通常発表最終期限)

送付先

日本感情心理学会第 26 回大会準備委員会 (下記 E メールアドレス) まで、添付ファイルでお送りください。

E メールアドレス jsre2018@gmail.com

様式

大会サイト (<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2018/submit.html>) からダウンロードして使用してください。

4. 大会発表賞について

優秀研究賞： 学術的・社会的・教育的意義などの観点から総合的に判断して、本大会の研究発表中、最も優れていると評価する研究発表に対して授賞します。

独創研究賞： 内容・テーマ・方法などに関して、特にアイデアとしての独創性が高いと評価する研究発表に対して授賞します。

グッドプレゼンテーション賞： 主としてポスターやパワーポイントの出来映えを中心に、特に発表の仕方が優れていると評価する研究発表に対して授賞します。

精励発表賞： 年次大会の研究発表を第一著者として繰り返し（5回）発表している会員に対して授賞します。なお、精励発表賞は自己申告制となっております。申請方法ならびに申請フォームは大会サイト（<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2018/submit.html>）からダウンロードしてご使用ください。

プレカンファレンス

11月9日（金）15時15分～17時30分まで5号館3階5310教室、主に若手研究者を中心としたプレカンファレンスが開催されます。

タイトル： 今、改めて問う「感情とは何か」(2) —感情の定義を創発しよう—

日時： 11月9日（金）15時15分～17時30分

場所： 5号館3階5310教室

企画者： 武藤世良（お茶の水女子大学）
白井真理子（同志社大学）

発表者：菅原大地（筑波大学）
小林亮太（広島大学）
菊谷まり子（東洋大学）

企画趣旨：

“Everyone knows what an emotion is, until asked to give a definition.”(Fehr & Russell, 1984, p. 464) —この一文が象徴するように、感情とは誰もが発動できる一方で、誰も正確な呪文を知らない奇妙な魔法のようである。昨年度の企画では、感情の上位概念と操作的定義を主題とし、感情とは何かについて改めて問題にした。その結果、日本の若手感情研究者の中でも、感情の定義は実に多様であることがうかがえた。

近年、感情は自然類ではなく、その都度創発されるという“**emergence**”の立場をとる研究者が増えつつある (e.g., Barrett, 2013; Scherer, 2009)。感情研究者の知恵と努力が集まれば、感情の定義に関しても、部分総和を超える発想ができるかもしれない。しかし、創発のためには要素が必要である。

そこで本年度は、感情の主要な構成要素(e.g., 主観的情感や生理的変化)に主に着目し研究を続ける若手研究者3名から話題提供をいただく。菅原氏には主観的情感、小林氏には生理的変化、菊谷氏には表出の観点から、ご自身の研究から見えてきた感情の捉え方についてお話しいただく。昨年度と同様に、当日は参加者ご自身が指定討論者となり、皆で議論する時間を楽しんでいただければ幸いである。

発表プログラム

注) #印は日本感情心理学会非会員であることを示す

特別講演

「ミュージカルにおける感情表現と演者の役割について」

11月10日（土）15時45分～17時15分 5号館3階5310教室

企画・司会： 戸梶亜紀彦（東洋大学）

講師： 沼尾みゆき#

シンポジウム

シンポジウム1 「感情の応用的研究—多様性を求めて—」

11月10日（土）13時30分～15時30分 5号館3階5310教室

企画・司会： 戸梶亜紀彦（東洋大学）

話題提供者： 押見大地（東海大学）

小林重人（北陸先端科学技術大学院大学）

杉谷陽子（上智大学）

シンポジウム2 「倫理で感情研究を豊かにする」

11月11日（日）13時30分～15時30分 5号館3階5310教室

企画： 日本感情心理学会倫理委員会

話題提供者： 河合孝尚（長崎大学）

池田功毅（中京大学）

佐藤徳（富山大学）

指定討論者： 中村真（宇都宮大学）

研究発表（口頭発表）

11月10日（土） 口頭発表（1） 10:45～12:15
5号館3階5310教室

座長： 樋口匡貴（上智大学）

- OS01. 感動体験が個人のライフストーリーに与える影響
—物語を読む体験に着目して—
石井悠紀子（東京大学大学院）
- OS02. 恩恵の相対的な大きさが感謝体験者の行動に及ぼす影響
—利益の生じない練習セッションを比較基準とした検討—
山本晶友（上智大学大学院）
樋口匡貴（上智大学総合人間科学部）
- OS03. 日本における自尊心の発達の軌跡
—Rosenbergの自尊心尺度得点の青年期から老年期における年齢差の検討—
荻原祐二（東京理科大学理学部）
楠見孝[#]（京都大学教育学研究科）
- OS04. 好奇心の5次元尺度の日本語版の開発
—好奇心の領域と対象について—
西川一二（京都大学大学院教育学研究科）
- OS05. 恨み忌避感尺度の作成と妥当性の検証
北村英哉（東洋大学社会学部）
小林麻衣[#]（立正大学）
木村はるか（関西大学大学院）
- OS06. 感情の上位概念化に伴う個別感情の帰属問題
—若手感情研究者を対象とした予備的検討—
武藤世良（お茶の水女子大学）
白井真理子（同志社大学）

11月11日(日) 口頭発表(2) 10:45~12:15
5号館3階5310教室

座長： 岩佐和典 (就実大学)

- OS07. 行動免疫からみた視覚的濡れ感の心理物理学的基盤
—対比較法による再現実験—
岩佐和典 (就実大学)
小松孝徳# (明治大学)
- OS08. 内受容感覚の鋭敏さは感情制御を促進する
小林亮太 (広島大学教育学研究科)
笹岡貴史# (広島大学感性イノベーション拠点)
宮谷真人# (広島大学教育学研究科)
中尾敬# (広島大学教育学研究科)
- OS09. 情動刺激呈示時における脳活動とマインドフルネス傾向との関連性
村上裕樹 (大分大学)
帆秋伸彦# (帆秋病院)
- OS10. 相対的に道徳的であると自分の罪に寛容になるか?
—不道徳な人物との下方比較が罪悪感喚起に及ぼす影響—
古川善也 (日本学術振興会 (広島大学))
中島健一郎# (広島大学)
- OS11. 敏感な生徒における清潔さが批判的思考態度・道徳規範に及ぼす影響
—中学生「個人差」調査報告—
上原智香子 (明治大学大学院情報コミュニケーション研究科)
- OS12. 選好による選択時の競合検出の個人差に影響する要因
朱建宏 (広島大学大学院)
橋本淳也 (広島大学大学院)
中尾敬# (広島大学)
宮谷真人# (広島大学)

11月11日(日) 口頭発表(3) 15:45~17:00
5号館3階5310教室

座長： 笠置遊 (立正大学)

- OS13. マスクの着用が対人不安者の印象に及ぼす影響
笠置遊 (立正大学心理学部)
- OS14. 逃げるは恥か？役立つか？
—拒否回避欲求がスピーチ中の「あがり」に与える影響—
小笠原香苗 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
中川敦子# (名古屋市立大学人間文化研究科)
- OS15. 嫌いなヤツにはあえて近づけ
—接近・回避行動の反復による対人印象の変化—
沼田恵太郎 (大阪成蹊短期大学幼児教育学科)
堀麻佑子# (関西学院大学文学部)
嶋崎恒雄# (関西学院大学文学部)
- OS16. 発表取り消し
- OS17. 絵本と親子会話、どちらにより多くの感情語が登場するのか？
渡邊直美 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
服部正嗣# (NTTコミュニケーション科学基礎研究所)
- OS18. 知的障害児に対する情動制御能力発達促進介入の有効性
大橋良枝 (聖学院大学心理福祉学部)

研究発表（ポスター発表）

11月10日（土） ポスター発表（1） 9:00～10:30
6号館1階第3会議室

*奇数番の発表者の責任在席時間は9時～9時45分、偶数番の方の責任在席時間は9時45分～10時30分までです。

- PS01. 不審者事前検知ソフトの検証（3）
—メンタルチェッカーと潜在的な状態及び特性尺度の関連—
大久保智生（香川大学教育学部）
稲垣(藤井)勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）
谷伊織（愛知淑徳大学健康医療科学部スポーツ・健康医科学科）
- PS02. 対話による犯罪解決と被害者の感情表出
湯山祥（早稲田大学）
- PS03. 日本人成人におけるギャンブル接触の実態
—Big Five パーソナリティ特性との関連を踏まえて—
高田琢弘（東海学園大学心理学部）
湯川進太郎（筑波大学人間系）
- PS04. 被災地に対する観光回避はなぜ生じるのか？
—観光の潜在的脆弱性、および被災地への援助・親和欲求からの検討—
佐藤拓（明星大学心理学部心理学科）
仁平義明[#]（星槎大学大学院教育学研究科）
- PS05. 悲しみを構成する特徴とは何か？
白井真理子（同志社大学心理学部）
長峯聖人（筑波大学／日本学術振興会）
- PS06. 感情特性の個人差
柴田利男（北星学園大学社会福祉学部）
- PS07. 顕在的・潜在的シャイネスの変容可能性の検討（1）
——対概念の活性化を用いた検討——
稲垣勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）
澤海崇文[#]（流通経済大学社会学部）
- PS08. シャーデンフロイデと意思決定との関連の検討
相羽将智（広島大学）

- PS09. 感情・覚醒チェックリスト (EACL) による「ここ1ヶ月の心理状態」の測定の検討
織田弥生 (実践女子大学人間社会学部)
- PS10. 感情喚起刺激における感動の位置づけに関する検討
戸梶亜紀彦 (東洋大学社会学部社会心理学科)
- PS11. 娘の父親に対する嫌悪感と父親の魅力との関係
阿部洋子 (跡見学園女子大心理学部臨床心理学科)
- PS12. 女子大生における自己没入が公的自意識・私的自意識に及ぼす影響
梅田亜友美 (早稲田大学)
加藤大樹# (金城学院大学)
- PS13. 夫婦間の接触回避および愛情と自己の性的イメージとの関係
河野和明 (東海学園大学心理学部)
羽成隆司 (相山女学園大学文化情報学部)
伊藤君男 (東海学園大学心理学部)
- PS14. 正直者が善い人なのか?
—嘘をつく意図が発言者の評価に与える影響—
田口恵也 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)
- PS15. 社会的排斥が顕在的自尊感情および潜在的自尊感情に及ぼす影響
金子迪大 (東洋大学)
鷹阪龍太 (東洋大学大学院)
- PS16. 顔から特性を判断する傾向の個人差
鈴木敦命 (東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室)
- PS17. 自己表情の変形主体 (自発的・自動的) の違いによる印象の違い
大橋佳奈 (立命館大学)
佐藤隆夫# (立命館大学)
尾田政臣# (立命館大学)
- PS18. 強度の低い微表情の認識における表情文脈の影響
茶谷研吾 (九州大学大学院人間環境学府)
- PS19. 内的作業モデルが表情の情動認知時の視線運動に及ぼす影響
松尾和弥 (甲南大学大学院/日本学術振興会特別研究員 DC2)
大浦真一 (甲南大学大学院人文科学研究科)
島義弘# (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)
稲垣(藤井)勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)
福井義一 (甲南大学文学部人間科学科)
- PS20. SNS における感情表出
—媒体による相違について—
平井花 (学習院大学文学部心理学科)

- PS21. 大学生の内受容感覚尺度作成の試み
大倉智衣 (愛知淑徳大学心理医療科学研究科/日本聴能言語福祉学院補聴言語学科)
櫻井優太 (愛知淑徳大学心理学部)
清水遵 (愛知淑徳大学心理学部)
- PS22. 「若い先短い」と感じるほど感情制御は向上するのか？
—Socioemotional Selectivity Theory に対する批判的検討—
榊原良太 (鹿児島大学)
- PS23. 反復性の高い音楽はストレスを軽減させるか
杉浦悠子 (愛知淑徳大学心理医療科学研究科)
清水遵 (愛知淑徳大学心理学部)
- PS25. 意図的・無意図的想起がもたらすネガティブ気分改善効果の違い
—注意制御能力との関連—
橋本淳也 (広島大学大学院教育学研究科)
金山範明[#] (産業技術総合研究所人間情報研究部門)
宮谷真人[#] (広島大学大学院教育学研究科)
中尾敬[#] (広島大学大学院教育学研究科)
- PS26. 日本語版 S-UPPS-P 衝動性尺度開発の試み (2)
長谷川智子 (大正大学)
川端一光[#] (明治学院大学)
福田一彦[#] (江戸川大学)
今田純雄 (広島修道大学)
- PS27. 赤ちゃんの自尊感情を測る
—競争場面での誇りの表出に注目した基準関連妥当性の検討—
箕浦有希久 (同志社大学研究開発推進機構赤ちゃん学研究センター)
高野裕治[#] (東北大学東北メディカル・メガバンク機構)
小西行郎[#] (同志社大学研究開発推進機構赤ちゃん学研究センター)
- PS28. 中学校における「いじめ認知」に関する客観的評価方法の開発
藤井義久 (岩手大学教育学部)

11月11日(日) ポスター発表(2) 9:00~10:30
6号館1階第3会議室

*奇数番の発表者の責任在席時間は9時~9時45分、偶数番の方の責任在席時間は9時45分~10時30分までです。

- PS29. 加害者の年齢が謝罪行動に及ぼす影響についての探索的検討
八木彩乃 (高知工科大学総合研究所)
榊美知子# (レディング大学)
- PS30. 刑事司法に対する態度と感情(1)
—刑事司法に対する態度尺度短縮版の作成を通じて—
向井智哉 (早稲田大学)
三枝高大 (早稲田大学/日本学術振興会)
- PS31. 刑事司法への態度と感情(2)
—二分法的思考とアタッチメント・スタイルとの関連—
三枝高大 (早稲田大学/日本学術振興会)
向井智哉 (早稲田大学)
- PS32. 看護職の情動知能と経験学習に関する研究
—Emotional intelligence and experiential learning on the nursing work—
石井慎一郎 (自治医科大学看護学部)
富川明子 (自治医科大学看護学部)
- PS33. 車掌の案内放送に対する旅客からのポジティブフィードバック(3)
—電車種別・行路を統制したお褒めの言葉を獲得しやすい案内放送の特徴—
菊地史倫 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)
山内香奈# (公益財団法人鉄道総合技術研究所)
- PS34. 「うらみ」とは何であるのか?
—質的構造の検討と尺度作成の試み—
鈴木拓朗 (東京大学大学院)
- PS35. 7つのポジティブ感情特性と創造性の関連
菅原大地 (筑波大学)
- PS36. 軽蔑と保守的態度との関連
福田哲也 (聖カタリナ大学人間健康福祉学部)
- PS37. ノスタルジアのネガティブな側面に関する面接調査
長峯聖人 (筑波大学大学院)

- PS38. 悔しさは固有の感情か？
—後悔との比較から—
新免愛香（就実大学大学院）
岩佐和典（就実大学）
- PS39. 紙筆版 IAT を用いた潜在的自己不一致の測定
鷹阪龍太（東洋大学大学院）
金子迪大（東洋大学）
- PS40. 感情情報交換時における損失割合の検討
原邊祥弘（帝塚山学院大学）
- PS41. 「えーと、あの一、まあ…」
—不適切なフィラーが聞き手による印象評定に及ぼす影響—
上野未来（東京成徳大学）
関谷大輝（東京成徳大学応用心理学部）
- PS42. タッピングタッチがどんな人にも効果があるのか？ その5
—過去の身体接触経験による効果の違い—
大浦真一（甲南大学大学院人文科学研究科）
福井義一（甲南大学文学部）
- PS43. 共感性を客観的に測定する MET-CORE2 日本語版の収束的妥当性の再検討
福井義一（甲南大学文学部人間科学科）
松尾和弥（甲南大学大学院）
大浦真一（甲南大学大学院人文科学研究科）
稲垣(藤井)勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）
島義弘[#]（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）
- PS44. ロマンティックレッドに関する追試研究
薊理津子（江戸川大学）
- PS45. 表情からの感情認識における背景人物の影響
—表情写真，表情イラスト，表情アイコンを用いて—
池田慎之介（東京大学大学院）
- PS46. 表情に対する選択的注意と表情模倣との関連性
—P300 を用いた検討—
谷田林士（大正大学心理社会学部）
姫野良介[#]（株式会社ヒューマントラスト）
三村安純[#]（株式会社インターワークス）
小林龍平[#]（大正大学人間学部）
- PS47. 外国人の表情から基本感情を読み取れるか？
—「恐れ」の困難さ—
村田光二（成城大学社会イノベーション学部）

- PS48. 表情検出器の開発
 一笑顔度推定値と心理評定との比較—
 藤村友美 (産業技術総合研究所)
 西田健次# (東京工業大学)
 山田亨# (産業技術総合研究所)
 松田圭司# (産業技術総合研究所)
 梅村浩之# (産業技術総合研究所)
- PS49. 心拍検出タッピング課題による内受容感覚の評価に関する検討
 一課題成績の種々の得点化方法と信頼性の検討—
 櫻井優太 (愛知淑徳大学心理学部)
 清水遵 (愛知淑徳大学心理学部)
- PS50. 事前の思考と唾液中コルチゾールに関する生理心理学的研究
 慶野友祐 (東北大学大学院文学研究科心理学講座)
 阿部恒之 (東北大学大学院文学研究科心理学講座)
- PS51. 開示抵抗感が筆記開示法の利用意欲に与える影響の検討
 大石彩乃 (お茶の水女子大学)
- PS52. 不快な対象の想起を伴う気晴らしにおける想起形式と効果の関連性
 石川遥至 (早稲田大学大学院文学研究科)
 越川房子 (早稲田大学文学学術院)
- PS53. 感情抑制動機尺度の作成
 相羽枝莉子 (九州大学大学院)
- PS54. アレキシサイミア傾向が怒り表出, コントロールに与える影響
 反中亜弓 (瀬戸少年院/名古屋大学大学院)
 寺井堅祐# (福井赤十字病院)
 梅沢章男# (放送大学福井学習センター)
- PS55. 不快感情に対する認知課題遂行の影響
 一直後と訓練後の比較—
 飯田沙依亜 (愛知工業大学)
- PS56. 目標達成の過程における情動の時間的变化
 一日本と米国の児童の目標達成における情動変化の特徴—
 中田栄 (帝京大学)
- PS57. 未就学児に対する養育者の対他感情制御方略
 一多母集団同時分析による子ども怒り場面・不安場面の比較—
 則近千尋 (東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース)
- PS24. ストレス負荷時における唾液アミラーゼ値と音色との関連
 川口めぐみ (駒澤学園駒沢女子短期大学)

発表要旨

特別講演

「ミュージカルにおける感情表現と演者の役割について」

11月10日（土）15:45～17:15 5号館3階5310

企画者： 戸梶亜紀彦（東洋大学）
講師： 沼尾みゆき

ミュージカルは歌と音楽・台詞・ダンスで構成された演劇形態の一つであり、俳優、舞台美術、照明、音響などを通して作品の魅力を伝えます。その中でも俳優が担う一番重要な役割は、作品や作者の想いが詰まった台本の『言葉を正確に観客に届けること』です。

以前在籍していた劇団四季には言葉を明確に伝えるための3つのメソッドがあり、それらを用いて言葉を伝えることを実践しています。台本をもらってから演者が具体的にどのような作業を行い、感情を表現し、伝えようとしているのか、それを観客がどのように受け取るのか。劇団四季に13年間在籍し、「オペラ座の怪人」のクリスティーヌ役、ミュージカル「李香蘭」の李香蘭役、「美女と野獣」のベル役、「サウンド・オブ・ミュージック」のマリア役など数々の作品でヒロインを演じ、退団後もミュージカルやコンサートの舞台に立っている経験からお話させていただき、実演を通して体感していただければと思います。



講師のご紹介

栃木県宇都宮市出身。とちぎ未来大使。東京藝術大学音楽学部音楽科卒業。

二期会オペラスタジオを経て1998年「四季劇場開場記念オーディション」に合格し、劇団四季に入団。『オペラ座の怪人』クリスティーヌ役、『ミュージカル李香蘭』タイトルロール、『サウンド・オブ・ミュージック』マリア役、『美女と野獣』ベル役など数々の作品にヒロインとして出演。

『ウィキッド』日本初演時には、ヒロインの一人グリンド役で初のオリジナルキャストに選ばれソプラノとポップスを見事に歌い分ける安定した歌唱力、そしてコミカルな演技にも挑戦し、高い評価を得た。2011年末劇団四季を退団。

退団後の主な出演作品にミュージカル『ひめゆり』（上原婦長役）、日生劇場ファミリーフェスティバル2016ミュージカル『三銃士』（アンヌ王妃役）、ミュージカル『タイムトラベラー』（リンジー役）など。

また、『ミュージカル・ミーツ・シンフォニー』（2014、2016）、にっぽん丸船上でのソロコンサート『亜細亜海道スペシャルコンサート』、『KING&QUEEN-鹿賀丈史×濱田めぐみミュージカルコンサート-』などコンサート・ライブや、テレビ東京系『THEカラオケ★バトル』などテレビ番組他出演多数。

沼尾みゆきオフィシャルサイト

<https://www.miyuki-numao.com>

シンポジウム (1)

「感情の応用的研究－多様性を求めて－」

11月10日(土) 13時30分～15時30分 5号館3階5310教室

企画・司会： 戸梶亜紀彦（東洋大学）
話題提供者： 押見大地（東海大学）
小林重人（北陸先端科学技術大学院大学）
杉谷陽子（上智大学）

企画趣旨：

このシンポジウムでは、『感情の応用的研究－多様性を求めて』と題して、感情を重要な要因と位置づけた応用的研究を行っている他分野の若手の先生方をお呼びし、スポーツ観戦者（スポーツ消費者の感動）に焦点を当てたご研究、地域活性化（地域コミュニティへの愛着）に焦点を当てたご研究、消費者行動（店舗内購買行動およびブランド態度形成）に焦点を当てたご研究について紹介していただきます。さまざまな領域での応用的研究から、感情研究の新たな可能性について考えるヒントを提供できればと期待しております。なお、本シンポジウムでは、話題提供者とフロアの先生方との活発な議論を行っていただくため、あえて指定討論者をおかない形にしておりますので、多くの方からの質疑を期待しております。

シンポジウム (2)

「倫理で感情研究を豊かにする」

11月11日(日) 13時30分～15時30分 5号館3階5310教室

企画： 日本感情心理学会倫理委員会
話題提供者： 河合孝尚（長崎大学）
池田功毅（中京大学）
佐藤徳（富山大学）
指定討論者： 中村真（宇都宮大学）

企画趣旨：

昨今社会を賑わすニュースには、ハラスメントの問題など、個人の倫理観を問うものが非常に多くなっている。研究者に倫理を求める動きもまた、近年急速に進んでいる。こうした社会の情勢を踏まえて、日本感情心理学会では2015年度より倫理委員会を設置し対応にあたっている。倫理規範は確かに大切であるが、法令やルールを闇雲に遵守することよりも、正しく理解しうまくつき合うことが、自身を守り、研究の発展を目指す上で不可欠である。そこで倫理委員会では、倫理で我々の研究をより豊かにするためのシンポジウムを企画する。

一般研究発表 口頭発表 (1)

11月10日(土) 10:45~12:15 5号館3階5310教室

OS01. 感動体験が個人のライフストーリーに与える影響

—物語を読む体験に着目して—

石井悠紀子 (東京大学大学院)

戸梶(1998)によると、感動とは情動的に心動かされるものである。先行研究では、感動をきっかけにして自分と対象との関わりを考えたり、自己の生き方を見つめ直す自己内省などの過程が活性化され、人格発達にとって重要な契機となることが示唆されている(橋本・小倉, 2002)。そこで本研究ではグラウンデッドセオリー法を用いて、長期的、短期的な視点から、感動体験が被験者のライフストーリーにどのように影響したかを分析した。

OS02. 恩恵の相対的な大きさが感謝体験者の行動に及ぼす影響

—利益の生じない練習セッションを比較基準とした検討—

山本晶友 (上智大学大学院)

樋口匡貴 (上智大学総合人間科学部)

ある恩恵を受け取った時の感謝により引き起こされる行動が、その恩恵の、比較基準に対する相対的な大きさに左右される可能性をチケット分配ゲームで検討した。利益の生じない練習セッションで参加者が受け取るチケットの枚数を比較基準として操作した。そして本番で別の参加者(架空)からチケットを6枚譲り受けた後の行動を測定した。その結果、感謝により引き起こされる行動は練習セッションで受け取る枚数に左右されず生じた。

OS03. 日本における自尊心の発達の軌跡

—Rosenbergの自尊心尺度得点の青年期から老年期における年齢差の検討—

荻原祐二 (東京理科大学理学部)

楠見孝[#] (京都大学教育学研究科)

自尊心の2つの側面(自己好意・自己価値)を含めた年齢差と70歳以上の高齢者の自尊心の年齢差は不明であった。そこで、日本の16歳の青年から88歳の高齢者を対象に、Rosenbergの自尊心尺度を実施した。結果、自尊心は青年で低く、成人から高齢者まで増加し続けており、欧米の先行研究とは異なり、50歳以降でも自尊心は低下していなかった。よって、自尊心の発達の軌跡が文化によって異なる可能性を示唆している。

OS04. 好奇心の5次元尺度の日本語版の開発

—好奇心の領域と対象について—

西川一二 (京都大学大学院教育学研究科)

本研究では Kashdan et al., (2018)の好奇心の5次元尺度の日本語版の開発を試みた。好奇心の5次元尺度は全25項目で5下位尺度各5項目(7件法)からなる。下位尺度は好奇心の側面である楽しい探索活動, ストレス耐性, 欠乏への感受性, 社会的な好奇心, リスク探求である。大学生426名(男性148名, 女性278名, 平均年齢18.89)を対象に1回目の調査を行い, 因子構造と他の尺度との関連を検討した。

OS05. 恨み忌避感尺度の作成と妥当性の検証

北村英哉 (東洋大学社会学部)

小林麻衣# (立正大学)

木村はるか (関西大学大学院)

日本文化に見られる「人目を気にする」という評価懸念は空気を重視することや(山本,1983)、和を保つため自己主張を抑制する規範を伴い、根底には「他者から恨まれたくない」という心情が横たわっている(佐藤・北村,2015,2017)。これを「恨み忌避感」と名づけ、尺度を構成すると共に多面的協調性尺度、信頼感尺度、公正世界観尺度などを用い、信頼性、妥当性の検証を行った。その結果、尺度間においてある程度の相関関係が観察され妥当性が得られた。

OS06. 感情の上位概念化に伴う個別感情の帰属問題

—若手感情研究者を対象とした予備的検討—

武藤世良 (お茶の水女子大学)

白井真理子 (同志社大学)

発表者が企画した昨年度のプレカンファレンスの開始時に、30個の感情がポジティブ感情・ネガティブ感情・基本感情・自己意識的感情・社会的感情・道徳的感情にそれぞれあてはまるかを、参加した若手感情研究者に独立に評定していただいた。分析対象者13名において、怒り・恐れ・悲しみ・喜びでは評定がほぼ一致したものの、他の感情ではそれほど一致せず、個別感情を特定の上位概念にカテゴリー化することの困難性が示された。

一般研究発表 口頭発表 (2)

11月11日(日) 10:45~12:15 5号館3階5310教室

OS07. 行動免疫からみた視覚的濡れ感の心理物理学的基盤

——対比較法による再現実験——

岩佐和典 (就実大学)

小松孝徳[#] (明治大学)

本研究では、行動免疫による感染源の視覚的検出過程を解明するために、視覚的な濡れ感知覚の心理物理学的基盤を検討した。15名の大学生女子(平均年齢20.9才)を対象に、視覚呈示された刺激の濡れ感に関する対比較実験を行った。その結果、刺激の含水量と画像内の高輝度領域数が視覚的濡れ感の評価値を正確に予測していた。さらに水分量が中程度のとき、嫌悪等の評定値がより高かった。これは先行研究の知見を再現する結果だった。

OS08. 内受容感覚の鋭敏さは感情制御を促進する

小林亮太 (広島大学教育学研究科)

笹岡貴史[#] (広島大学感性イノベーション拠点)

宮谷真人[#] (広島大学教育学研究科)

中尾敬[#] (広島大学教育学研究科)

内受容感覚(例:心臓の鼓動)と感情の間には密接な関連があり、内受容感覚に対する鋭敏さは、感情に対する鋭敏さに繋がるとされている。そして、この感情への鋭敏さは、感情制御を促進すると考えられている。そこで、本研究では、内受容感覚の鋭敏さと感情制御の関連について検討を行った。研究の結果、内受容感覚が鋭敏な者において、感情制御が有効に働き、精神的健康が良好になることが示された。

OS09. 情動刺激呈示時における脳活動とマインドフルネス傾向との関連性

村上裕樹 (大分大学)

帆秋伸彦[#] (帆秋病院)

情動刺激を提示された際の脳活動とマインドフルネス傾向との関連性について検討した。その結果、情動刺激を見ている際にはマインドフルネス傾向の低い人では、背外側前頭前皮質がより活動することがわかった。マインドフルネス傾向の高い人では、不快な場面に直面しても認知的負荷をかけて対処しようとはせず、あるがままに受け入れることによって、長期的にはストレス負荷の低い対処法を取っていると示唆される。

OS10. 相対的に道徳的であると自分の罪に寛容になるか？

—不道徳な人物との下方比較が罪悪感喚起に及ぼす影響—

古川善也（日本学術振興会（広島大学））

中島健一郎[#]（広島大学）

過去の道徳行動から生じるモラルライセンシングは、後の不道徳行動を生じやすくさせるだけでなく、罪悪感の生起も抑制する(古川他, 2016)。ライセンシング効果は、自分自身の行動による道徳性評価の高揚から生じると想定されているが、不道徳な他者との比較によって相対的に道徳性評価が高まることでも生じうることが示唆されている(Szabó et al., 2017)。そこで本研究では不道徳者との下方比較による罪悪感への影響の検証を行った。

OS11. 敏感な生徒における清潔さが批判的思考態度・道徳規範に及ぼす影響

—中学生「個人差」調査報告—

上原智香子（明治大学大学院情報コミュニケーション研究科）

本研究は、敏感者における清潔が心的態度に影響を及ぼすと仮定、中学生 900 人に行った実験心理学的調査報告である。敏感さを HSP 高群/低群に分けた結果、これまで捉えられていなかった清潔と心的態度に関係があることが明らかになった。HSP 高群は、共感性が 1%水準で有意に高く、清潔になることで批判的思考態度・道徳規範が 5%水準で有意に高まると確認された。手を拭くことにより何らかの心理的障壁が払拭されたのかもしれない。

OS12. 選好による選択時の競合検出の個人差に影響する要因

朱建宏（広島大学大学院）

橋本淳也（広島大学大学院）

中尾敬[#]（広島大学）

宮谷真人[#]（広島大学）

自分の好みに基づいて判断する自由選択事態では迷いの程度である競合の検出が生起し、その検出の程度には個人差があることが知られている。しかし、その個人差をもたらす心理的要因は明らかになっていない。本発表では競合検出の程度の個人差を予測する心理的要因について検討した結果を報告する。

一般研究発表 口頭発表 (3)

11月11日(日) 15:45~17:00 5号館3階5310教室

OS13. マスクの着用が対人不安者の印象に及ぼす影響

笠置遊 (立正大学心理学部)

本研究の目的は、対人不安の高い人がマスクを着用してコミュニケーションを行ったときの印象について検討することであった。実験では参加者に、刺激人物がコミュニケーションしている映像を呈示し、その人物に対する印象を評定させた。実験デザインは、人物の対人不安(高 vs.低)×マスクの着用(有 vs.無)であった。その結果、対人不安の高い人物は、マスクを着用すると着用しないときよりも印象が良くなることが明らかにされた。

OS14. 逃げるは恥か? 役立つか?

—拒否回避欲求がスピーチ中の「あがり」に与える影響—

小笠原香苗 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

中川敦子# (名古屋市立大学人間文化研究科)

本研究は、拒否回避欲求がスピーチ場面における主観的/生理的緊張と「あがり」に与える影響について、質問紙や生理指標、他者評定を用いて多面的な検討を行った。その結果、拒否回避欲求はスピーチ予期時の主観的緊張に加えて、「あがり」発生時の生理的緊張、さらには他者から見たスピーチの巧拙と関連していた。このことから、拒否回避欲求の高さがスピーチ場面におけるパフォーマンスの悪化に寄与する可能性が示された。

OS15. 嫌いなヤツにはあえて近づけ

—接近・回避行動の反復による対人印象の変化—

沼田恵太郎 (大阪成蹊短期大学幼児教育学科)

堀麻佑子# (関西学院大学文学部)

嶋崎恒雄# (関西学院大学文学部)

本研究では顔写真をCS、レバーの押し引きをUSとした評価条件づけの実験を行った。実験1は快でも不快でもない中性的な顔写真をCS、実験2では快または不快な顔写真をCSとして用い、レバーの押し引きの反復により、潜在・顕在的態度が変化するか否かを検討した。その結果、どちらの実験でもレバーの押し引きによって潜在・顕在的態度の変化がみられたが、レバー押しが接近行動、レバー引きが回避行動として作用するという先行研究とは異なる知見も示された。

OS16. 発表取り消し

OS17. 絵本と親子会話、どちらにより多くの感情語が登場するのか？

渡邊直美 (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

服部正嗣# (NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

乳幼児が日常的に触れている絵本と親子会話に登場する感情語に、質的な違いがあるのかどうかを調査するため、絵本コーパス (5,394 冊分のテキストデータ) と親子会話 (448 会話) を用い分析した。その結果、最も登場頻度が高い感情語は絵本と親子会話で共通していたが、絵本は親子会話よりもバラエティ豊かな感情語を子どもに提供していることが分かった。また、親子会話においてはしつけに関連する感情語が使用される傾向が示唆された。

OS18. 知的障害児に対する情動制御能力発達促進介入の有効性

大橋良枝 (聖学院大学心理福祉学部)

知的障害 (太田ステージ評価ステージ I -3)、自閉症スペクトラム障害と診断された児童の他害の問題が知的特別支援学校教師から心理士に相談された。観察した心理士は情動制御発達の問題を査定し、教師に査定に基づいた介入をするよう伝えた。2 週間で教師は当該児童の指導に希望を持ち始め、半年後に児童の知的水準はステージ III-2 後期まで上がった。本研究では本事例を用いて、情動制御と知的水準の関係から事例を分析・考察する。

一般研究発表 ポスター発表 (1)

11月10日(土) 9:00~10:30 5号館3階5310教室

PS01. 不審者事前検知ソフトの検証 (3)

—メンタルチェッカーと潜在的な状態及び特性尺度の関連—

大久保智生 (香川大学教育学部)

稲垣(藤井)勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

谷伊織 (愛知淑徳大学健康医療科学部スポーツ・健康医科学科)

本研究の目的は、不審者事前検知ソフトの検証のために、メンタルチェッカーと潜在的な状態及び特性尺度の関連について検討することであった。結果として、メンタルチェッカーの指標と潜在的な状態及び特性尺度に関連はほぼ認められないことが明らかとなった。

PS02. 対話による犯罪解決と被害者の感情表出

湯山祥 (早稲田大学)

犯罪が起きた際の対処として、現行の刑事司法は国が加害者に罰を与える、いわゆる応報的なものである。これに対して、被害者、加害者、およびその関係者が、対話を通して被害からの回復を模索するという修復的なものがある。そのような対話による犯罪解決のアプローチへの一般人の受容度において、被害者が表出する感情が関係しうるのかを、被害者が怒りを表出している場合と悲しみを表出している場合に分けて検証した。

PS03. 日本人成人におけるギャンブル接触の実態

—Big Five パーソナリティ特性との関連を踏まえて—

高田琢弘 (東海学園大学心理学部)

湯川進太郎 (筑波大学人間系)

本研究は、日本人成人を対象とした WEB 調査を実施し、日本におけるギャンブル接触の実態について検討することを目的とした。また、ギャンブル接触と Big Five パーソナリティ特性との関連についても検討した。株式会社が保有するモニターのうち、日本人成人 900 人 (男性 483 人、女性 417 人、平均年齢 43.21 歳, SD = 12.34) を対象とした。結果から、“ギャンブルの経験がある”と回答した人は、調査協力者の 47.7% (429 人) であった。

PS04. 被災地に対する観光回避はなぜ生じるのか?

—観光の潜在的脆弱性、および被災地への援助・親和欲求からの検討—

佐藤拓 (明星大学心理学部心理学科)

仁平義明# (星槎大学大学院教育学研究科)

東京都・大阪府の 240 名を対象に web 調査を実施し、被災地 (いわき市、熊本市) への観光意欲に影響する要因を検討した。「ネガティブな体験の可能性」が「他の観光地への代替可能性」と「ポジティブな体験の可能性」を媒介して観光意欲に影響し、「観光地への援助・親和欲求」は「ポジティブな体験の可能性」を媒介して観光意欲に影響するというモデルを構築し、共分散構造分析を実施した。その結果、上記のモデルは支持された。

PS05. 悲しみを構成する特徴とは何か？

白井真理子（同志社大学心理学部）

長峯聖人（筑波大学／日本学術振興会）

悲しみがどのような特徴により構成されている感情概念なのかを明らかにするため、プロトタイプアプローチを用いた2つの調査を行った。調査1では、大学生122名に対し悲しみの特徴について収集した。結果、死や別れといった悲しみの代表的な場面に関わる特徴だけでなく、成長、ポジティブ感情の同時生起といったポジティブな特徴もいくつか報告された。調査2では、大学生135名に対し、調査1で報告された特徴の典型性評定を求めた。

PS06. 感情特性の個人差

柴田利男（北星学園大学社会福祉学部）

感情特性の個人差分析を試み、家族関係、性格特性、主観的幸福感との関連性について検討した。分析の結果、感情特性は安定かつ一貫した個人の傾向であるといえるが、個人が経験する感情の傾向を意識的に変えることで感情特性は変容可能であるのではないかと考えられる。

PS07. 顕在的・潜在的シャイネスの変容可能性の検討（1）

——対概念の活性化を用いた検討——

稲垣勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

澤海崇文[#]（流通経済大学社会学部）

大学生44名に協力を得て、実験的操作を用いて顕在的・潜在的なシャイネスの変容可能性を検討した。参加者の顕在的・潜在的シャイネスをそれぞれ特性シャイネス尺度（相川，1991）およびシャイネスIAT（藤井・相川，2013）で測定した後、参加者を1日あたり2時間は社会的に振る舞うよう教示する実験群と、教示をしない統制群とに無作為に割り当てた。4日間の実験期間後、再度顕在的・潜在的シャイネスを測定し、その変化を検討した。

PS08. シャーデンフロイデと意思決定との関連の検討

相羽将智（広島大学）

Kramer et al(2011)は、シャーデンフロイデが人々に安全で、社会的な選択をさせることを示した。しかし、Kramer et al(2011)の研究では、本当にシャーデンフロイデ感情が喚起されたのかは明確ではないため、本研究では、kramer et al(2011)の追試を行い、シャーデンフロイデの程度も測定する。また、日本においてもKramer et al(2011)と同様の結果が得られるかもあわせて検討する。

PS09. 感情・覚醒チェックリスト（EAACL）による「ここ1ヶ月の心理状態」の測定の検討

織田弥生（実践女子大学人間社会学部）

EAACLによる「ここ1ヶ月の心理状態」の測定について、以下の検討を行った。(1)感情5尺度、覚醒4尺度のSEMの結果、概ね良好な適合度が得られた。(2)1週間おきに4回測定した「ここ1週間の心理状態」の合計と、4週目に測定した「ここ1ヶ月の心理状態」の間に高い相関が見られた。(3)日常苛立ち事尺度得点の上位25%・下位25%群の各尺度の得点を比較したところ、2尺度を除いて有意差が見られた。

- PS10. 感情喚起刺激における感動の位置づけに関する検討
戸梶亜紀彦（東洋大学社会学部社会心理学科）

いくつかの感情喚起刺激（映像）を実験参加者に提示し、自己報告による生理的变化、感情の変化、刺激に対する認知的評価、心理的变化などについて尋ねた。これらの結果から、感動を喚起する刺激とその他の感情喚起刺激との相違について多次元尺度構成法によるマッピングを行い、感動の位置づけについて検討を行った。

- PS11. 娘の父親に対する嫌悪感と父親の魅力との関係
阿部洋子（跡見学園女子大心理学部臨床心理学科）

これまで実施した調査研究から、父親に対する娘の嫌悪感は、両親の仲の良さ、特に母親が娘に対して父親をどのように語っているかが関係していることを見出した。また娘の嫌悪感の程度は使用される感情語によっても異なることを見出した。他方、大学入学後、娘は父親に対する嫌悪感と共に父親に対する魅力を改めて感じるようになり、そのことが嫌悪感低減に繋がっている傾向がみられる。

- PS12. 女子大生における自己没入が公的自意識・私的自意識に及ぼす影響
梅田亜友美（早稲田大学）
加藤大樹[#]（金城学院大学）

本研究では、自己没入が公的自意識および私的自意識に及ぼす影響を検討することを目的とし、女子大学生を対象に質問紙調査を実施した。その結果、自己没入は自己反芻に強い影響、自己内省に中程度の影響、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求には弱い影響を及ぼすことが示された。自己没入は動機付けや精神的健康との関連に関わらず、公的自意識よりも私的自意識への影響が強いことが示唆された。

- PS13. 夫婦間の接触回避および愛情と自己の性的イメージとの関係
河野和明（東海学園大学心理学部）
羽成隆司（椋山女学園大学文化情報学部）
伊藤君男（東海学園大学心理学部）

WEB 調査(既婚男女 20-69 才)にもとづき、配偶者に対する接触回避(CA)、愛情、自己の性的イメージについて検討した。好色イメージ(LI)は男性が女性より高く、年代とともに低下した。乱交イメージ(PI)も男性が女性より高いが、年代の効果はなかった。CA は男女とも LI と無相関だが、PI とは正相関がみられた。愛情と PI は男女とも負相関、愛情と LI は女性のみ正相関がみられた。これらの機能が考察された。

PS14. 正直者が善い人なのか？

—嘘をつく意図が発言者の評価に与える影響—

田口恵也 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

同じ嘘であっても、自分のためか他者のためかによってその印象は異なる。本研究では、嘘か真実かという発言、および発言の意図の違いによって発言者に対する印象がどのように変化するかを検討を行った。発言(嘘・真実)とその意図(利他的・利己的)の違いを反映したシナリオを作成し、シナリオ上の発言者に対する印象評価を比較した。その結果、発言とその意図の違いによって発言者に対する評価が異なることが示された。

PS15. 社会的排斥が顕在的自尊感情および潜在的自尊感情に及ぼす影響

金子迪大 (東洋大学)

鷹阪龍太 (東洋大学大学院)

社会的排斥により自尊感情は低下することが知られている。しかし、意識的評価に基づく顕在的自尊感情と非意識的評価に基づく潜在的自尊感情は異なる評価プロセスに依存する。特に潜在的自尊感情は、他の課題に取り組んでいる間も以前の情報を処理し続けていると考えられるため、排斥後一定時間が経過しても、顕在的自尊感情に比べ低下したままであると考えられる。この仮説を実証的に検討した。

PS16. 顔から特性を判断する傾向の個人差

鈴木敦命 (東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室)

人は他者の特性をその顔から推測する傾向をもつ。この傾向には人類共通の適応的機序(敏感な表情認知システムなど)が関係すると論じられてきたため、個人差に関する検討は乏しい。そこで、本研究では、顔から種々の特性を極端に判断する程度の個人差を検討した。結果として、顔からある特性(例. 信頼性)を極端に評価しやすい者は他の特性(例. 支配性)も極端に評価しやすいという特性間をまたぐ個人差の存在が明らかになった。

PS17. 自己表情の変形主体(自発的・自動的)の違いによる印象の違い

大橋佳奈 (立命館大学)

佐藤隆夫[#] (立命館大学)

尾田政臣[#] (立命館大学)

観察者本人の中立的な表情から、本人の自発的な変形操作、もしくは機械による自動的変形によって生成された感情表情(笑顔・悲しい顔)から生じる主観的な印象(感情体験)を評価した。その結果、本人の自発的な変形操作から生成された表情からは、笑顔、悲しい顔に関わらず、ポジティブ感情が増加し、ネガティブ感情が減少した。また、実験中自動変形に気がついた観察者には、自動変形された笑顔表情に対する無力感が生じた。

- PS18. 強度の低い微表情の認識における表情文脈の影響
茶谷研吾（九州大学大学院人間環境学府）

これまでに、表情の文脈が微表情の認識に影響することが示されている (Zhang, Fu, Chen & Fu, 2014)。しかし実際の微表情は強度が低く (Yan, Wu, Liang, Chen & Fu, 2013)、強度の高い表情画像を用いた既存の研究は文脈の影響を過大視している可能性がある。本研究では強度の低い微表情画像でも同様に文脈の影響が確認できるか検討した。その結果一部の微表情の認識に文脈が影響する可能性が示唆された。

- PS19. 内的作業モデルが表情の情動認知時の視線運動に及ぼす影響
松尾和弥（甲南大学大学院／日本学術振興会特別研究員 DC2）
大浦真一（甲南大学大学院人文科学研究科）
島義弘[#]（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）
稲垣(藤井)勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）
福井義一（甲南大学文学部人間科学科）

内的作業モデル (IWM) の下位次元である関係不安は、表情の変化の鋭敏な検出と関連している (Fralely et al., 2006)。そのため、関係不安の高い者は、表情の各部位に視線を向けすぎること、情報を過剰に検出している可能性がある。そこで本研究では、IWM を測定する質問票調査と表情の情動認知課題を実施した。表情の情動認知課題の際に、参加者の視線運動を測定しておくことで、IWM が表情の情動認知時の視線運動に及ぼす影響を検討した。

- PS20. SNS における感情表出
—媒体による相違について—
平井花（学習院大学文学部心理学科）

本研究は Social Networking Service（以下 SNS）における感情表出について、基礎的な調査を行うことを目的とする。大学生 153 名（男性 103 名、女性 50 名、M = 18.78 歳）が参加し、SNS の利用状況及び感情表出について質問紙に回答した。結果、喜び・悲しみ・怒りの感情表出の頻度が、媒体 (LINE, Twitter, Facebook, Instagram) によって異なることが示された。

- PS21. 大学生の内受容感覚尺度作成の試み
大倉智衣（愛知淑徳大学心理医療科学研究科／日本聴能言語福祉学院補聴言語学科）
櫻井優太（愛知淑徳大学心理学部）
清水遵（愛知淑徳大学心理学部）

内受容感覚の個人差を測定する質問紙はこれまでに幾つか存在するが、いずれも特定の状況下における内受容感覚の気づきの頻度を問う質問項目で構成されており、内受容感覚の鋭敏性(強度)の個人差を直接測定しているものとはいえない。そこで、本研究では、大学生を対象に行った、諸器官の内受容感覚の鋭敏性を評定する質問紙から尺度構成された「内受容感覚尺度」を作成した。また、その信頼性と妥当性を検討した。

- PS22. 「老い先短い」と感じるほど感情制御は向上するのか？
—Socioemotional Selectivity Theory に対する批判的検討—
榊原良太（鹿児島大学）

社会情動選択性理論によれば、限られた「人生の残り時間」の感覚は、適応的な感情制御の使用を動機づけるという。本研究では、20～89歳の1391名を対象とした調査によってこの点を検証した。しかし、「人生の残り時間」の感覚と感情制御との間に関連は見られず、また「未来時間展望」と感情制御の関連は、社会情動選択性理論の仮定とは逆のものであった。この結果は、社会情動選択性理論の仮定に疑義を投げかけるものであるだろう。

- PS23. 反復性の高い音楽はストレスを軽減させるか
杉浦悠子（愛知淑徳大学心理医療科学研究科）
清水遵（愛知淑徳大学心理学部）

聴取音楽の情報量と感情との関係は、適度な刺激量を持つ音楽が一般に快感情を高め、刺激量が過度に高い又は低い音楽は不快感情を高めるといふ、逆U字関係にあるとされている。しかし、抑うつ状態の場合などでは、情報量の少ない反復性の高い音楽が気分改善をもたらすとも言われ、聴取時の気分状態に影響されると考えられる。本実験では、情報過多のストレス状態において、反復性の高い音楽がストレス軽減に及ぼす影響を検討した。

- PS25. 意図的・無意図的想起がもたらすネガティブ気分改善効果の違い
—注意制御能力との関連—
橋本淳也（広島大学大学院教育学研究科）
金山範明[#]（産業技術総合研究所人間情報研究部門）
宮谷真人[#]（広島大学大学院教育学研究科）
中尾敬[#]（広島大学大学院教育学研究科）

本研究では、ポジティブ記憶想起の際の想起意図の有無がネガティブ気分の改善にもたらす効果の違いについて、注意制御能力との関連から検討を行った。ネガティブ気分への誘導を行った後、事前に記銘したポジティブ画像の意図的または無意図的な想起を行った。その結果、注意制御能力が高い人では想起意図の有無によって気分の改善に差は見られなかったが、注意制御能力が低い人は無意図的に想起したときのほうが気分が改善した。

- PS26. 日本語版 S-UPPS-P 衝動性尺度開発の試み（2）
長谷川智子（大正大学）
川端一光[#]（明治学院大学）
福田一彦[#]（江戸川大学）
今田純雄（広島修道大学）

邦訳の一部を改変するなど改良した上で、再調査をおこない、信頼性と妥当性を検討することを目的とする。

PS27. 赤ちゃんの自尊感情を測る

—競争場面での誇りの表出に注目した基準関連妥当性の検討—

箕浦有希久（同志社大学研究開発推進機構赤ちゃん学研究センター）

高野裕治[#]（東北大学東北メディカル・メガバンク機構）

小西行郎[#]（同志社大学研究開発推進機構赤ちゃん学研究センター）

本研究の目的は乳幼児の自尊感情を測定する他者評定尺度の開発と妥当化である。乳幼児自尊感情の他者評定尺度を用いて、養育者2名が子に対して評定を行った。子は実験室で競争課題（積み木）に従事した。その映像を無関係な評定者が視聴し、誇りの表出について行動評定を行った。養育者による子への他者評定の自尊感情の高低と、子の誇りの表出の大小の関連を分析し、乳幼児自尊感情尺度の基準関連妥当性を検討した。

PS28. 中学校における「いじめ認知」に関する客観的評価方法の開発

藤井義久（岩手大学教育学部）

文科省のいじめの定義に基づき、客観的ないじめ判定を可能にする評価方法について検討した。具体的には、40個のいじめが疑われるスクールライフイベントを提示し、それぞれの出来事ごとに、精神的苦痛度を5段階で回答してもらい、最も精神的苦痛度が高い出来事を100として順に変換公式に基づきいじめ深刻指数を算出した。そして、過去1か月以内に経験した出来事のいじめ深刻指数を合算した値を用いて、客観的ないじめ判定をおこなうことにした。

一般研究発表 ポスター発表 (2)

11月11日（日）9:00～10:30 5号館3階5310教室

PS29. 加害者の年齢が謝罪行動に及ぼす影響についての探索的検討

八木彩乃（高知工科大学総合研究所）

榊美知子[#]（レディング大学）

関係の維持を望む悪意なき加害者にとって、謝罪は葛藤状況を解決しうる手段である。特に高齢者は、今現在の社会的パートナーとの関係維持を重視するため (Carstensen, 1992)、自身が加害者である葛藤場面で謝罪が促されやすいことが考えられる。しかしこれまでの研究では、加害者の年齢による謝罪傾向の違いについては明らかにされていない。そこで本研究では、場面想定法を用い、高齢者群と若者群それぞれでの謝罪傾向について検討した。

PS30. 刑事司法に対する態度と感情 (1)

—刑事司法に対する態度尺度短縮版の作成を通じて—

向井智哉 (早稲田大学)

三枝高大 (早稲田大学/日本学術振興会)

本研究は、刑事司法に対する態度尺度短縮版の作成を通じて、刑事司法に対する態度と感情の関連を検討することを目的とする。具体的には、遺伝的アルゴリズムを用いた項目選択によって 4 因子 12 項目からなる短縮版尺度の作成を行い、感情的変数（怒りおよび道徳的嫌悪）との関連の検討を通じてその妥当性を検討する。

PS31. 刑事司法への態度と感情(2)

—二分法的思考とアタッチメント・スタイルとの関連—

三枝高大 (早稲田大学/日本学術振興会)

向井智哉 (早稲田大学)

本研究では、刑事司法への態度と感情反応の関係を説明・予測する要因を検討することを目的とする。刑事司法への態度と感情の関係を調整する要因として、二分法的思考、アタッチメント・スタイルを仮定し、それらの関連を検討することで、刑事司法への態度と感情反応の関係を説明する一因を明らかにする。

PS32. 看護職の情動知能と経験学習に関する研究

—Emotional intelligence and experiential learning on the nursing work—

石井慎一郎 (自治医科大学看護学部)

富川明子 (自治医科大学看護学部)

本研究は、省察の基盤となる自己への気づきにかかわる自己の感情評価や分析する能力(EI)と経験学習との関連を明らかにすることを目的とした。本研究の結果から、高い EI をもつ看護職ほど経験学習も高いことが明らかとなった。しかし、各群の[具体的経験]と[情動の表現と命名]間には有意差及び相関はみられなかった。今後は、どのような対象者が高い[具体的経験]を示すのか、さらなる検討を行う。

PS33. 車掌の案内放送に対する旅客からのポジティブフィードバック (3)

—電車種別・行路を統制したお褒めの言葉を獲得しやすい案内放送の特徴—

菊地史倫 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

山内香奈# (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

鉄道旅客からお褒めを獲得しやすい案内放送の特徴を検討するために、これまで多くのお褒めを獲得している車掌とお褒めを獲得していない車掌を対象に、電車種別、時間帯や区間を統制した営業線の現地調査を実施した。その結果、多くのお褒めを獲得している車掌は通常の案内放送よりも丁寧で説明を追加した案内放送をタイミング良く実施していた。また、停車駅が多いときよりも停車駅数が少ない電車のときに、より丁寧になっていた。

PS34. 「うらみ」とは何であるのか？

—質的構造の検討と尺度作成の試み—

鈴木拓朗（東京大学大学院）

本研究では「うらみ」体験の質的構造を検討し、「うらみ」を体験しやすい傾向（「うらみ」特性）を測定する尺度の作成を行った。質的分析の結果、「うらみ」は否定的感情である“許せなさ”と“不公正感”，諦めや無力感を内包する“どうしようもなさ”の3要因から構成されることが示された。次に、この3要因から「うらみ」特性を評定する尺度を作成した。本尺度においては、一定の信頼性と妥当性が確認された。

PS35. 7つのポジティブ感情特性と創造性の関連

菅原大地（筑波大学）

ポジティブ感情を細分化して、その機能を探索する試みが盛んに行われているが、認知機能に関する検討は進んでいない（Shiota et al., 2017）。そこで、本研究では、7つのポジティブ感情特性を測定後、創造性課題（拡散的思考と洞察力を測定）を実施した。相関分析の結果、畏敬（awe）と拡散的思考に正の関連がみられた。新規な物事に心惹かれるという畏敬（awe）の特徴によるものと解釈した。

PS36. 軽蔑と保守的態度との関連

福田哲也（聖カタリナ大学人間健康福祉学部）

軽蔑は社会的なルールを守らない対象に生じやすい感情である。そのため既存のルールや制度を重視する保守的な人物ほど、軽蔑を強く感じる可能性が考えられる。そこで本研究では、保守的な態度として伝統主義傾向および現状維持傾向を測定し、他者に対する軽蔑の強さとの関連を検討した。その結果、わずかではあるが軽蔑の強さと伝統主義傾向に負の相関がみられ、むしろ軽蔑を感じる人物ほど伝統的な考えでない可能性が示唆された。

PS37. ノスタルジアのネガティブな側面に関する面接調査

長峯聖人（筑波大学大学院）

ノスタルジアは混合感情的な体験であり、ネガティブな要素を含むために不適応的な影響をもたらす場合がある。本研究では、その原因と対策の探索を目的として大学生27名を対象に面接調査を行った。内容を分類した結果、ネガティブな要素としては、「当時の環境や人物に関する喪失感」や「現在と過去の対比」などがみられた。またネガティブな要素への対応としては「自身の成長の評価」や「他者とのつながりの認知」などがみられた。

PS38. 悔しさは固有の感情か？

—後悔との比較から—

新免愛香 (就実大学大学院)

岩佐和典 (就実大学)

本研究では、悔しさ感情に固有の心理学的特徴を明らかにすることを目的とした。そのために、悔しさと類似する感情である後悔との比較を通じて、悔しさとの異同を検討した。その際、悔しさと後悔とは、行動賦活系/抑制系(BIS/BAS)、パーソナリティの主要5因子、ならびに攻撃性との関連性に違いがあるとの仮説を設定し、これを検証した。147名を対象としたウェブ調査の結果から、悔しさと後悔の差異について考察した。

PS39. 紙筆版 IAT を用いた潜在的自己不一致の測定

鷹阪龍太 (東洋大学大学院)

金子迪大 (東洋大学)

潜在的な自己不一致を測定する手法として PC による IAT が用いられており、PC 版理想-現実 IAT 得点によって潜在的な自己不一致得点が自尊感情と自己愛傾向の関連を調整することが示されてきた。一方で、小学校や少年院などの自尊感情研究において重要なフィールドでは PC を用いた計測が制度的・設備的な問題から難しい点に課題が残されている。本研究では、紙筆版 IAT によって潜在的な自己不一致が測定可能であるかどうかを検討された。

PS40. 感情情報交換時における損失割合の検討

原邊祥弘 (帝塚山学院大学)

感情のやりとりにおいて、会話での文脈や表情・身振りなど、感情情報を伝える際、感情の発信者から受信者に伝わる感情の総量は棄損される。本研究では、感情の損失割合が、喜怒哀楽などの感情の種類によって違いがあるか検討した。

PS41. 「えーと、あの一、まあ…」

—不適切なフィラーが聞き手による印象評定に及ぼす影響—

上野未来 (東京成徳大学)

関谷大輝 (東京成徳大学応用心理学部)

“えーと”，“あの一”のような発話中の言い淀みはフィラーと呼ばれ，出現頻度が高すぎる場合には不適切に機能する恐れがあるとされる。本研究では，買い物における商品選択場面を想定した刺激として，店員（話者）による商品説明の音声（フィラー有，フィラー無の2条件）を作成した。これを協力者に聴取させ，フィラーの有無によって話者に対する印象や説得力の評定が変容することについて検討した。

PS42. タッピングタッチがどんな人にも効果があるのか？ その5

—過去の身体接触経験による効果の違い—

大浦真一（甲南大学大学院人文科学研究科）

福井義一（甲南大学文学部）

本研究では、過去の身体接触経験によって、タッピングタッチ（TT）が気分や被拒絶・被受容感、主観的幸福感に及ぼす効果の違いについて検討した。大学生 66 名が同性でペアを組み TT を実施した。分析の結果、過去の身体接触経験の多少に関わらず、TT 後には上記の変数が肯定的な変化を示した。さらに、被拒絶・被受容感と主観的幸福感において、過去の身体接触経験の多い群は、少ない群よりも変化量が大きいことが分かった。

PS43. 共感性を客観的に測定する MET-CORE2 日本語版の収束的妥当性の再検討

福井義一（甲南大学文学部人間科学科）

松尾和弥（甲南大学大学院）

大浦真一（甲南大学大学院人文科学研究科）

稲垣(藤井)勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

島義弘[#]（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

Multifaceted Empathy Test（以後 MET）は、共感性を客観的に測定可能である。福井他（2017）は、MET の最新版である MET-CORE2 の日本語版の暫定版を作成したが、一部の訳語に不備があった。そこで、本研究では、訳語を修正した上で、妥当性の検討を行った結果、認知的共感が自閉症傾向やダークトライアドの下位尺度と有意な相関を示した。本研究から、MET 日本語版が一定の妥当性を備えていることが確認されたといえる。

PS44. ロマンティックレッドに関する追試研究

薊理津子（江戸川大学）

ロマンティックレッドとは赤色が女性の魅力を高める現象のことであり、服部(2006)が女性の背景色を操作し、本邦でも同様の現象を確認している。本研究では、女性の服の色を操作した Kayser (2010)の追試を行った。結果、緑色よりも赤色の服を着た女性は魅力的であると評価され、男性は緑色よりも赤色の服を着た女性に対して、なれなれしい質問を行うことが示された。以上より、ロマンティックレッドが再現された。

PS45. 表情からの感情認識における背景人物の影響

—表情写真、表情イラスト、表情アイコンを用いて—

池田慎之介（東京大学大学院）

本研究では、表情の写真、イラスト、アイコンをそれぞれ 5 つ並べ、中心の表情の感情強度を回答させた。その結果、写真とイラストでは周囲の表情が異なることの影響を受けたが、アイコンでは受けづらいことが示された。アイコン的な表情からは、実際の表情とは異なる処理で感情が認識されていることが示唆された。

PS46. 表情に対する選択的注意と表情模倣との関連性

—P300 を用いた検討—

谷田林士 (大正大学心理社会学部)
姫野良介[#] (株式会社ヒューマントラスト)
三村安純[#] (株式会社インターワークス)
小林龍平[#] (大正大学人間学部)

本研究では、ニュートラル表情を高頻度刺激、情動表出の表情をターゲット刺激としたオドボール課題を実施し、事象関連電位を測定した。さらに、15名の参加者は対話課題の聞き手の役割となり、話し手が嬉しい話をしている際の大頬骨筋電位が測定され、対人場面における表情模倣が測定された。その結果、嬉しい話の際の大頬骨筋の活性の程度と、ターゲット刺激に対する P300 の振幅との間に有意な相関がみられた。

PS47. 外国人の表情から基本感情を読み取れるか？

—「恐れ」の困難さ—

村田光二 (成城大学社会イノベーション学部)

アメリカの社会心理学の教科書などに載っている顔写真などを材料にして、大学の「対人コミュニケーション論」の受講生を対象にして、基本感情の読み取りができるかどうかを調査した。その結果、「喜び」「悲しみ」「驚き」の正答率は高かったが、「怒り」と「嫌悪」については、それより低い水準であった。さらに「恐れ」を表出しているはずの顔を「恐れ」と判断できた確率は偶然に近い水準の場合もあり、概して低かった。

PS48. 表情検出器の開発

—笑顔度推定値と心理評定との比較—

藤村友美 (産業技術総合研究所)
西田健次[#] (東京工業大学)
山田亨[#] (産業技術総合研究所)
松田圭司[#] (産業技術総合研究所)
梅村浩之[#] (産業技術総合研究所)

画像からの笑顔の自動検出は、産業場面でも需要が高くさまざまな表情検出器が開発されている。本研究では、Matlab 上で開発した表情検出器の妥当性を調べるために、AIST 顔表情データベースを資料として、算出された笑顔度推定値と心理評定との関連を調べた。その結果、モデル 8 名中 5 名の正面笑顔について、笑顔度推定値と快—不快評定に有意な相関がみられた。今後は斜め顔の笑顔度推定の向上を目指す。

- PS49. 心拍検出タッピング課題による内受容感覚の評価に関する検討
—課題成績の種々の得点化方法と信頼性の検討—

櫻井優太 (愛知淑徳大学心理学部)
清水遵 (愛知淑徳大学心理学部)

自身の生理的状态に関する感覚(内受容感覚)の鋭敏性には個人差がある。内受容感覚には複数の評価法があり、各研究で用いられている方法は異なる。本研究では、「推測でも良いので心拍に合うようにタッピングする」課題を設定し、短時間の課題によって内受容感覚を評価することを試みた。また、その課題成績を得点化する複数の方法について検討するとともに、再測定による信頼性の検討をおこなった。

- PS50. 事前の思考と唾液中コルチゾールに関する生理心理学的研究
慶野友祐 (東北大学大学院文学研究科心理学講座)
阿部恒之 (東北大学大学院文学研究科心理学講座)

将来起こりうる出来事に対して否定的に考え続ける心配という認知現象のうち、本研究では思考の持続という要素に着目した。心理社会的ストレス負荷として TSST を用い、事前に課題の情報を与え考えさせる思考群と、事前に課題についての情報を与えられない無思考群のそれぞれに課題を実施させた。課題前後の唾液中コルチゾール濃度およびネガティブ感情を群間比較することにより、事前思考の有無がそれらの指標に与える効果を検討する。

- PS51. 開示抵抗感が筆記開示法の利用意欲に与える影響の検討
大石彩乃 (お茶の水女子大学)

ストレス経験に関する思考や感情を書くこと(筆記開示法)は精神的健康を促進すると言われていいる。本研究では、ストレス経験の開示抵抗感が高いと筆記開示法の利用意欲が高まると考えた。筆記開示法について説明文を教示し、最近のストレス経験への開示抵抗感および利用意欲の評定を求めた。結果、ストレス経験の他者評価懸念が高く、文章化抵抗が低いほど筆記開示法への自己効力感が高まり、利用意欲が高まることが示唆された。

- PS52. 不快な対象の想起を伴う気晴らしにおける想起形式と効果の関連性
石川遥至 (早稲田大学大学院文学研究科)
越川房子 (早稲田大学文学学術院)

不快な気分や対象から注意を逸らす気晴らしは、早期の気分改善に有効である一方、問題の回避行動として機能する可能性が指摘されている。石川・越川(2018)は、非回避的な方略として、不快な対象を意図的に想起しながら行う注意分割型気晴らしを試み、一定の効果があることを示した。本研究は、この注意分割型気晴らしにおける想起を言語的な反すう・感覚的イメージで行う場合での、気分と想起対象の印象評価への効果を比較した。

PS53. 感情抑制動機尺度の作成

相羽枝莉子（九州大学大学院）

Gross (1998) は代表的な感情調節方略の一つに、感情抑制をあげている。勝利を目標としたスポーツ競技場面では、感情調節は重要な役割を果たし、選手は、何かをきっかけに感情抑制方略を選択していることが推測される。スポーツ競技場面における感情抑制を扱った研究が少ない中、本研究は感情抑制の“動機”に着目をし、この動機を測る尺度の作成および信頼性・妥当性の検討を試みた。

PS54. アレキシサイミア傾向が怒り表出、コントロールに与える影響

反中亜弓（瀬戸少年院／名古屋大学大学院）

寺井堅祐[#]（福井赤十字病院）

梅沢章男[#]（放送大学福井学習センター）

本研究は、青年期においてアレキシサイミア傾向の諸特性（感情識別困難、感情伝達困難、外的志向）が怒り表出及びコントロールに与える影響について検討した。質問紙調査の結果、10代半ばでは、アレキシサイミア傾向の影響に男女による違いは認められなかったが、10代後半からは男子では外的志向がコントロールの負因となるのに対し、女子で認められない等、アレキシサイミア傾向による影響に性差があることが示唆された。

PS55. 不快感情に対する認知課題遂行の影響

—直後と訓練後の比較—

飯田沙依亜（愛知工業大学）

飯田ら（2009）は認知課題の遂行が後続の感情反応を低減させることを示した。日常的な認知課題の遂行により、認知機能の向上が確認されていることをふまえ、本研究では4カ月にわたる日常的な認知課題の遂行が感情反応に与える影響について検討した。訓練後でも認知課題遂行直後と同様、不快感情の低減が確認され、訓練後では直後では確認できなかった不快感情の上方制御の促進も新たに確認された。

PS56. 目標達成の過程における情動の時間的变化

—日本と米国の児童の目標達成における情動変化の特徴—

中田栄（帝京大学）

本研究は児童24名を対象とし、日本と米国の児童の目標達成における情動表出とその時間的变化を検討した。米国の児童は、目標を達成するために仲間からの誘いを断って達成し、日本の児童では仲間からの誘いに影響されて達成に時間がかかる傾向があった。なお、日本と米国のいずれの児童においても達成の瞬間に喜びと驚きの情動が検出された。日本の児童が仲間からの誘いを断ると、仲間関係が親密なほど時間経過とともに、葛藤によって無表情や嫌悪の情動へと変化した。

PS57. 未就学児に対する養育者の対他感情制御方略

—多母集団同時分析による子ども怒り場面・不安場面の比較—

則近千尋（東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース）

自分の感情ではなく、相手の感情を感情制御することを対他感情制御という。幼少期の子どもは、養育者の対他感情制御を受けながら、子どもは感情についての知識や感情制御能力を発達させていくことが示唆されている。本研究では、子ども怒り場面・子ども不安場面によって養育者が使用する対他感情制御や、各方略の関連に違いがあるかを、多母集団同時分析を用いて検討した。

PS24. ストレス負荷時における唾液アミラーゼ値と音色との関連

川口めぐみ（駒澤学園駒沢女子短期大学）

オルゴール音や川が流れる自然の音は、感情や気分を癒す音色としてヒーリングミュージックの中に多く取り入れられている。本研究では、このような音色は本当に感情を癒しているのか、また、癒し効果があるならばどのような音色が最も効果的なのかを検討するため、質問紙調査と唾液アミラーゼ値を指標にした実験を行った。結果、癒し効果としてよく知られるオルゴール音よりも効果的な音色の存在が明らかとなった。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

心の治療における感情

—科学から臨床実践へ— S. G. ホフマン著 有光
興記監訳 A5・224頁・本体2700円＋税 感情は、精神的健康の重要な決定因である。心理学的介入に関心のある臨床家や医療従事者に向けて、感情研究の基礎的な理論と知見を解説。生物学と神経科学、社会心理学、パーソナリティ心理学、動機づけ、近年のマイナドフルネス観想法に至るまでを網羅。

ポジティブ心理学を味わう

—エンゲイジメントを高める25のアクティビティ— J. J. フロウ・A. C. パークス編 島井哲志・福田早苗・亀島信也監訳 A5・248頁・本体2700円＋税 ポジティブ心理学の全体像を掴み、その神髄に触れる実践活動を厳選。この領域の第一人者が、勇気、謙遜、共感性、感謝、希望といった概念を、現実世界の実践と繋げて理解できるよう促す。

認知心理学の動機づけと認知コントロール

—報酬・感情・生涯発達の視点から— T. S. プレイバー編著 清水寛之・金城 光・松田崇志訳 A5・448頁・本体4800円＋税 動機づけが認知を、また、認知が動機づけを支えるメカニズムについて、神経科学との融合分野から解説。注意、学習、記憶という認知プロセスと感情を含む動機づけのプロセスとの関係について最新の研究状況を俯瞰する。

犯罪行動の心理学【第6版】【仮題】

—2018年秋刊行予定！— J. ボンタ・D. A. アン
ドリュウ著 原田隆之他訳 A5・約704頁・予備7000
円＋税 膨大なデータに基づいて犯罪行動を科学的かつ
綿密に分析し、犯罪のリスク因子、リスク・アセス
メント、治療原則などについて解説。犯罪心理学の実
践を転換し、世界中の犯罪・司法臨床現場に影響を与
えた知見をまとめる。

シリーズ 感覚・知覚心理学【仮題】

—2018年刊行予定！— 太田信夫監修 行場次朗編
集 A5・約200頁・予備2200円＋税 基礎的な知見の
まとめから、五感（視・聴・嗅・味・触）に纏わる研
究とその応用領域を紹介。デザインや商品開発、パー
チャルリアリティといった最新の話題で、身近な応用
領域に迫る。心理学を活かした仕事に役立つ知見と働
く人々の今を伝えるシリーズ。

マインドフルネス認知療法ワークブック

—うつと感情的苦痛から自由になる8週間プログラム—
J. ティーズデール・M. ウィリアムズ・Z. シー
ガル著 小山秀之・前田泰宏監訳 B5・256頁・本
体3600円＋税 MBCTの開発者らによるワークショップ
を、オリエンテーションからエクササイズ、Q&A、
ホームワークまで、リアルに再現。読者の洞察を深め
るために、参加者の声と対話も多数紹介。

セルフ・コントロールの心理学

—自己制御の基礎と教育・医療・矯正への応用— 高
橋雅治編著 A5・408頁・本体4800円＋税 経済行動
をはじめ、基礎から応用の最新成果を重点的に解説。
神経基盤に関する論述まで包含。即時的な小報酬（衝
動性）および遅延される大報酬（セルフ・コントロー
ル）を軸に行動背景にある心理的なメカニズムや影響
を及ぼす社会的諸要因の解明を目指す。

生理心理学と精神生理学 第I巻 基礎

堀 忠雄・尾崎久記監修 坂田省吾・山田富美雄編集
B5・320頁・本体3800円＋税 第I巻では生理心理学
の歴史的な経緯も含め、主に研究法の基礎的内容を扱
う。脳とそれ以外の生体反応を区分し、その測定技術
および解析の仕方について詳述する。基礎的知見の体
系的理解を得るために国家資格試験の試験対策として
も好適。II巻応用、III巻展開の全3巻。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事【全20巻】

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予備2000～2600円＋税

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

実践的メタ分析入門

◎戦略的・包括的理解のために
岡田 涼・小野寺孝義 編著
結論の再現性・客観性を担保するメタ分析のためのデータ収集・分析法を初歩から応用まで伝授。
28000円

夢のフロンティア

◎夢・思考・言語の二元論を超えて
マーク・J・ブレスリナー 著
鈴木健一 監訳 / 小池哲子 訳
夢は人間の心理や脳について何を語り、何に貢献するのか。
36000円

人工感情

◎善か悪か
福田正治 著
AIはどのように進化していき、どのような関係を人間と結ぶのか。神経行動科学者である著者が「感情」という視点から解きほぐす。
18000円

尊敬関連感情の心理学

武藤世良 著
敬愛、心酔、畏怖、感心、驚嘆——誰かを尊敬しその人と関係を築いていくことは人にどのような影響を与えるのか。実証的研究から迫る。
10500円

感情研究の新展開

北村英哉・木村 晴 編
主要理論や研究方法をおさえ、記憶・判断・自己など新たな視点を展開。さらに臨床場面における応用的トピックまで幅広く解説した、基礎的の専門書。
28000円

誤解の心理学

◎コミュニケーションのメタ認知
三宮真智子 著
誤解はなぜ起こるのか。関係修復はできるのか。メタ認知をキーに、コミュニケーション力を培う。
25000円

保健と健康の心理学 標準テキスト③

健康心理学の測定法・アセスメント

鈴木伸一 編著
健康をどのような方法で測定・評価するか。基礎から応用まで解説。
32000円

触覚の心理学

◎認知と感情の世界
田崎権一 著
触覚から改めて精神・教育・医学・芸術の世界を眺め、触覚の科学と人間生活・文化との関係を考察する。
25000円

情念の継承

◎感情記憶と「型」の発見
福田正治 著
古典芸能や芸術、工芸において人間の情念はどう継承されるのか？ 心理学や脳科学の観点から論じる。
16000円

感情制御の精神生理学

◎不快の認知的評価
手塚洋介 著
代表的理論やモデル、ネガティブ感情を扱った実験を通して、認知的評価の感情制御機能について探究。
48000円

コンピテンス

◎個人の発達とよりよい社会形成のために
速水敏彦 監修
陳惠貞・浦上昌則・高村和代・中谷素之 編
動機づけや適応力など、社会で生きる能力に迫る多彩な論文集。
28000円

クロスロード・パーソナリティ・シリーズ③ 計量・パーソナリティ 心理学

◎新しい統計手法を駆使してパーソナリティ研究に挑む人たちにに向けて、幅広くモデルを紹介。
庄島宏一郎 編
38000円

日本感情心理学会第26回年次学術大会

賛助団体芳名（協賛・広告・展示）

株式会社 北大路書房
有限会社 ブックマン
株式会社 ナカニシヤ出版

（五十音順）

本大会を開催するにあたり、上記企業各位や団体より多大なご支援をいただきました。
ここにそのご芳名を記して、心から感謝の意を表します。

2018年9月

日本感情心理学会第26回大会準備委員会 委員長
戸梶亜紀彦

大会準備委員会

委員長：戸梶亜紀彦（東洋大学）
事務局長：金子迪大（東洋大学）
大会委員：安藤清志（東洋大学）
北村英哉（東洋大学）
久保ゆかり（東洋大学）
桐生正幸（東洋大学）
尾崎由佳（東洋大学）
鷹阪龍太（東洋大学）
陸英善（東洋大学）
倉矢匠（東洋大学）
滝口雄太（東洋大学）

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20
東洋大学社会学部
E-mail: jsre2018@gmail.com

HP: <http://jsre.wdc-jp.com/conf/2018/greetings.html>